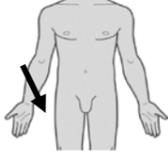


患者ID	施設名	患者年齢	患者性別	
	内視鏡施行日	評価日	評価者	
観察部位 				
1. 評価の可否 (可, 不可) (評価不能な場合はその理由を自由記載)				
2. 画像・画質 (良, 可, 不良)				
3. 観察範囲 (十分, 可, 狭い)				
4. 透析液の性状 (透明, 混濁, 血性)				
5. カテーテル内 フィブリン #1, #2	浮遊フィブリン: (なし, あり)			
	カテーテルに付着したフィブリン: (なし, あり)			
	付着フィブリンの外観 (小塊状, 苔状, 斑状)			
	付着フィブリン量 (0, ±, 1+, 2+)			
	付着フィブリンの拡がり extent (focal: <50% or diffuse: >50%)			
6. 腹腔液内 フィブリン	なし or あり			
	量 (±, 1+, 2+)			
観察した腹膜の部位		臓側腹膜	壁側腹膜	大網
7. 観察の可否				
8. 腹膜の外観	腹膜表面の観察は可能か? #3			
	色調 color (変化なし, 白色調=白濁, 褐色調, 赤色調)			
	観察範囲内での色調変化の範囲 (focal: <50% or diffuse: >50%)			
	色調変化の強度 (0, ±, 1+, 2+)			
	表面外観 surface appearance (平滑状, 細粒状, 敷石状, 波状, 斑状)			
外観に関するその他の所見 (自由記載) (例: 赤い斑点がある, etc)				
9. フィブリン #2	フィブリンの付着 (なし or あり)			
	フィブリンの外観 #4 (雲霧状, 小塊状, 斑状)			
	フィブリンの量 (±, 1+, 2+)			
	フィブリンの観察範囲内での拡がり extent (focal: <50% or diffuse: >50%)			
	フィブリン架橋 fibrin hbridging (なし, あり, 判別不能, 評価不能)			
	フィブリンの可動性 (なし, あり)			
	フィブリンに関するその他の所見 (自由記載)			
10. 新生膜 #5 (neomembrane)	なし or あり			
	観察範囲内での拡がり extent (focal: <50% or diffuse: >50%)			
	色調 color (半透明, 白色調 褐色調) #6			
	新生膜と腹膜との固着 fixation (判定不能, -, ±, 1+, 2+) #7			
	観察範囲内の腸管被嚢化 encapsulation (判定不能, -, ±, 1+, 2+) #8			
	小血管増生 (-, ±, 1+, 2+)			
	その他の所見 (臓器の癒着など)			
11. 血管	観察 (なし, あり)			
	静脈の拡張 (-, ±, 1+, 2+)			
	蛇行 (-, ±, 1+, 2+)			
	交叉 #9 (-, ±, 1+, 2+)			
	小血管(毛細血管~小動静脈)増生 (-, ±, 1+, 2+)			
	出血 bleeding (-, ±, 1+, 2+)			
	出血の性状 (点状, 斑状, 広範囲)			
12. 石灰化	なし or あり			
13. 腸管運動 Bowel movement (良, 可, 不良)				
14. 腹膜の伸展性 extensibility (良, 可, 不良)				
15. その他の特記すべき所見 (フィブリン・新生膜の鑑別困難理由, 腫瘍病変の有無等)				
#1 PDカテーテル内、腹腔液の評価は内視鏡挿入時に行う(全体観察後は接触やフラッシュによりフィブリンが遊離してくるため)。				
#2 「フィブリン」は内視鏡観察における「白色フィブリン様の堆積物・沈着物」を指し、必ずしも病理学的にフィブリンと証明されたものではない。病理診断・臨床現場で慣用的に用いられている用語については「フィブリン」を用いる。それ以外のものに関しては「フィブリン様」という表記を用いる。なお、新生膜部位においてはフィブリン様構造物の判断は行わない。				
#3 腹膜の観察は、表面にフィブリン・新生膜等が被覆している時は観察不可とする。鑑別できない場合は、リストより鑑別不可を選択し腹膜所見をその他の所見へ記載する。				
#4 フィブリンの外観は、「雲霧状:腹膜表面にゲル状に一定の容積をもって堆積している様を意味する。小塊状:腹膜上面の局所的な隆起を伴う様を意味する。斑状:腹膜表面の比較的平滑な変化で、境界がある程度明確である様を意味する。」と定義する。				
#5 新生膜は、既存の腹膜をある程度連続性をもって覆う膜様構造物と定義する。腸管相互や壁側臓側腹膜間の癒着や複数の被嚢化のありなしは問わない。				
#6 新生膜の性状は、色調を基本に評価する。半透明は薄い被膜で、白色調・褐色調は一定程度以上の厚みを有する被膜を指す。				
#7 固着は、新生膜と直下にある腹膜との結合と定義する。その有無は、腸管蠕動を確認し、被膜との間での乖離した運動が確認されれば固着はないと判断する。				
#8 腸管被嚢化は、複数の腸管や腹腔臓器が新生膜によって嚢状に包まれる状態と定義する。この場合の新生膜は、基本的に固着している新生膜であり、本診断の可否はある程度全体像を観察し得た場合に限られる。				
#9 交叉は、交通のない血管同士が交わる状態と定義する。これは、多層化した膜の存在を示唆する所見として判断する。				